

文化財調査報告書

調査日：平成 24 年 12 月 11 日

- 1 種 別 県指定天然記念物
- 2 名 称 沼サンゴ層
- 3 指 定 年 月 日 昭和 42 年 3 月 7 日
- 4 所 在 地 館山市沼 521-3
- 5 所 有 者 館山市

6 調査までの経緯：

およそ 6,000 年前に堆積した沼層は、貝・サンゴの化石が含まれた地層で安房地域に広く分布する。特に館山市内の崖（露頭）はサンゴの化石を多く産出することが知られている。指定地は、その一部で館山市沼地先にある 99 m² の範囲である。そこに、盗掘を防ぐためのコンクリートと檻からなる構造物を建て、状態のよいサンゴの化石を公開・保存している。

今回は平成 19 年度に文化財保存調査が行われており、公開されているサンゴ化石の現地性や、指定名称の問題、藍藻類 (*Gloeocapsa crepidium*) による被害対策、パネル・キャプションの標記、構造物の形状などについての課題が言及されている。

今回の調査は、現状を把握するとともに、これまで言及されている課題を検討することを目的とした。

7 現状及び取り扱いの留意事項：

<現状>

指定地のうち、サンゴ化石が見られるのは、三方をコンクリートブロックで囲まれた構造物内であり、正面には鉄製の檻が設置され、内部が見学できる。

サンゴ化石は以前より少なくなっている可能性がある。化石の周辺は「砂」で埋められているが、これはサンゴが風化したために本体やその間にある泥などが堆積したものであろう。化石表面は、藍藻対策として塗布している薬剤コレトールが功を奏して良好な状態であった。

構造物内部は前日に吹いた風により、落ち葉が散乱していたが、館山市が掃除した直後に風が吹いてしまったとのことであった。

<取り扱いの留意事項>

(1) 現地までの解説板・案内板

館山駅におりると、駅前ロータリーに沼サンゴの良い標本が展示されており、館山市教育委員会名の解説板が付いている。しかし、劣化してしまっているため、予算があるときに修正したほうが良いと思われる。

また、駅から現地までの数か所に案内表示があり、日本語と英語で表現されている。そのうちの一か所の英名表示で、「**Numa Sangoso Coral Bed**」という誤表記があった。これは「**Numa Coral Bed**」に直すべきである。館山市によれば、該当の表示板は来年度付け替える予定なので、その際に修正することであった。他の案内板には「**Numa Coral Layer**」とある。これでも誤りとは言えないが、次に直す機会があれば「**Numa Coral Bed**」に統一したほうがよいと考える。

(2) 指定地域

「サンゴ化石の種類が通常より多いために、指定地のサンゴ化石は周辺から標本を持ってきたのではないか、したがって現地性に乏しく、化石は標本として室内に管理すべきではないか」との議論があったが、本調査では2種が明らかに合着している様子が確認できたので、複数種の化石が本来この場所にあったことがわかる。また、たとえ周辺の化石が紛れていたとしても化石学の見地では「自生」とすることができることから、「現地性はある」と判断される。したがって、これらの化石は現状のまま現地で公開したほうが良いと思われる。

指定名称についてはこれまで「沼のサンゴ化石」との案もあったが、現状のままでもよい。しかし、もし名称変更を検討するのであれば「沼のサンゴ層」としたほうがよいと考える。

解説板については、英語の解説の中に一部不明確な表現があるが、基本的には現状のまま構わない。もし将来的に解説板を造り直すことがあれば、その時に対処すればよいと考える。

サンゴの種名を示したキャプションは、標記の仕方の統一性がないことを指摘されたため、今は片付けられているが、和名をカタカナで、学名はラテン語標記にすることで対応したらよい。

サンゴ化石の管理については、泥の中にも微細な生物化石が含まれているので、枯れ葉を除去する程度がよく、できれば年に1回冬の乾燥した時期に水で表面を軽く流すと良いだろう。ただし、コレトレールの効果を損なわないよう留意する必要がある。

サンゴ化石を保護する構造物の壁は、斜面に押され、斜面の下側にせり出している。いずれ改修する必要があるが、改修はサンゴ層を痛めることになるので、なるべく後にしたほうが良い。できるなら、壁が崩れるまで手をつけないほうがサンゴ化石の保存になる。鉄製の檻については見栄えが悪く、次の改修

ではできれば金網に変えることを勧めたい。構造物の鉄部分に塗布しているペンキが剥離しており、これについてはできるだけ早く塗り直したほうが良い。色は現状のままだがよい。

現状で鳥獣による被害の痕跡はない。しかし、いずれの文化財でも同じであるが、周辺の鳥獣害による被害についても情報を集めるなど、注意が必要であろう。

(3) 指定地周辺の沼サンゴ層

指定地の周辺には、同様にサンゴ化石を多く産出する場所があるが、そこでは過度のサンプリングが懸念されている。しかし、沼層は広く分布するので、それ自体の消失の危険性は少ない。保護と、学術的な利用あるいは教育的な利用という面で難しい課題であり、周辺のサンゴ化石についての取り扱いは、今後検討されるべき事案である。



写真1 館山市駅前ロータリーの解説板

写真2 ロータリーの標本





写真3 沼サンゴ層までの案内板
(英語表記に誤りが見られる)



写真4 沼サンゴ層までの案内板



写真5 沼サンゴ層保護のための構造物



写真6 内部の様子



写真7 2種のサンゴの合着部



写真8 2種のサンゴの合着部



写真9 解説（和文）

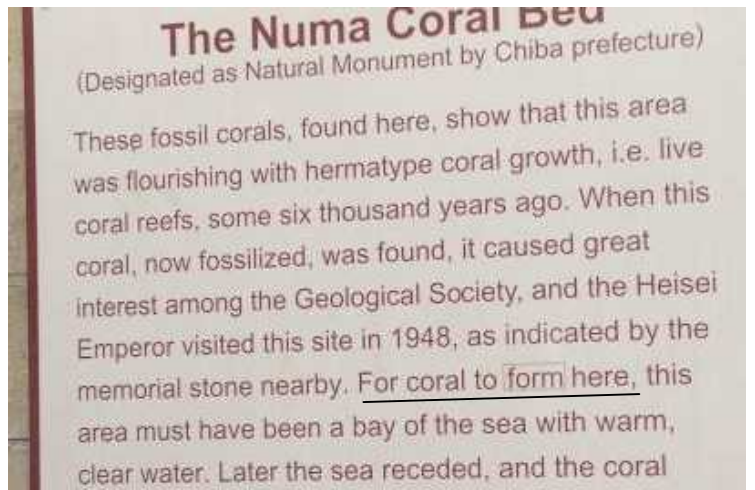


写真10 解説（英文）



写真11 片付けられたキャプション



写真12 せり出したブロック



写真13 檻の状態



1974年5月14日撮影の沼サンゴ層

